

社団法人 日本循環器学会  
2008年度第2回理事会議事録

日 時 2008年(平成20年)11月7日(金) 14時30分～17時00分

場 所 東京国際フォーラム ガラ棟 6F(602)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

理事現在数：20名

出席：和泉 徹、小川 聡、北 徹、児玉逸雄、坂田隆造、島田和幸、島本和明、下川宏明、  
鄭 忠和、土居義典、友池仁暢、永井良三、堀 正二、松崎益徳、水野杏一、山岸正和

欠席：小川久雄、高本眞一、堀江 稔、室原豊明

その他出席者

監事：青沼和隆

幹事：白山武司、近森大志郎、寺崎文生、西垣和彦、野原隆司、藤井崇史、藤田正俊、堀内久徳、  
松森 昭、南野哲男

オブザーバー：佐地 勉(小児循環器系代表) 村松孝夫(財団法人日本心臓財団)

事務局：加藤安雄、清水光則

議事

第1号議案 公益法人制度改革(定款変更)

第2号議案 委員会報告及び検討事項

1) 医療安全・医療倫理委員会

2) 用語委員会

3) 学術集会プログラム委員会

4) 学術集会運営委員会

5) 心臓移植委員会

6) 学術委員会

7) 専門医編集委員会

8) 循環器救急医療委員会

9) 情報広報委員会

10) 国際交流委員会

11) 健保対策委員会

12) コメディカル委員会

13) 国内交流委員会

14) 財務委員会

15) 専門医制度委員会

16) 編集委員会

17) 総務委員会

第3号議案 年次学術集会報告

1) 第73回年次学術集会報告

2) 第74回年次学術集会報告

第4号議案 委員会委員承認

## 第5号議案 その他

### 1) 幹事報酬の見直しについて

#### ・議事の経過及び結果

- 1) 定刻になり、小川理事長が議長となり開会した。
- 2) 藤田総務幹事から、出席者数は定款第25条の定数を満たし、理事会が成立していると報告があった。
- 3) 議長が、議事録署名人として第73回堀会長と第74回北会長を指名し、了承された。
- 4) 藤田総務幹事から、配布資料および回覧資料の確認があった。
- 5) 資料に記載の14名の物故会員のご逝去に対して、黙祷が捧げられた。
- 6) 前回理事会議事録の確認がなされた。

## 第1号議案 公益法人制度改革(定款変更)

議長から、新しい公益法人制度への移行に関する検討課題とスケジュールについて説明があった。来年3月の総会で定款の変更を承認していただき、新年度以降速やかに申請を行う予定である。定款変更案に関する主な内容は以下の通り。

- 1) 新法人の事業内容については、各委員会の担当理事に、年内を目途としてご検討いただく。
- 2) 理事の人数は25名から35名まで、監事は3名以内とする。
- 3) 支部選出の理事を25名とし、外科系2名および小児科系1名を含む内科以外の分野から5名以内を理事長推薦枠とする。理事長推薦枠については、各支部より推薦をしていただく。
- 4) 支部選出理事の配分は、まず各支部に1名ずつ割り振り、残りを正会員数に応じたドント方式により配分する。
- 5) 現行の評議員会は廃止し、従来の評議員を法令上の社員として、社員により社員総会を構成する。  
社員の定員は200名から300名とする。
- 6) 役員を選出は、2年に1度社員により構成される「役員等選出委員会」を設置して選出する。
- 7) 社員総会の議長は、理事長が担当する。
- 8) 会長は、理事から選出するが、会長任期中は理事でなくてもよいものとする。

以上について、承認された。

## 第2号議案 委員会報告

### 1) 医療安全・医療倫理委員会

永井委員長から以下の点について報告があった。

第73回学術集会時 第8回医療安全・医療倫理に関する講演会について、「医療安全調査委員会設置法案(仮称)大綱案を考える」をテーマに識者を招いて開催する。

厚生労働省 大綱案について、2008年8月持ち回り理事会を開催し、資料の意見書を内科学会と連名で提出した。

福島県立大野病院事件判決への声明文について、2008年8月持ち回り理事会を開催し、資料の声明文を内科学会と連名で発表した。

以上について承認された。

## 2) 用語委員会

山岸委員長から以下の通り報告があった。

循環器学用語集第三版のデータがホームページに掲載された。随時アップデートを行う予定である。

今後の改定については、専門分野の先生からご意見を求めると同時に、ホームページ等を通じて一般会員からの意見も参考にする。

以上について、承認された。

## 3) 学術集会プログラム委員会

松崎委員長から以下の通り報告があった。

今年度から、プログラム委員会は「小委員会」から「委員会」に改められた。これに伴い、委員会規約の委員会内規を改訂した。

第74回学術集会(北徹会長)のプレナリーセッション・シンポジウムの構成を検討中であり、次回12月12日に開催する委員会で、セッションテーマおよび座長を決定する。プレナリーセッション、シンポジウムとも、例年に引き続き全て90分の枠で開催する予定である。

以上について、承認された。

## 4) 学術集会運営委員会

兎玉委員長から以下の通り報告があった。

従来から、一部の共催セミナー、展示、展示セミナーなどで会長校の判断で例外的に無料で行われてきたものがある。その取り扱いについて議論した結果、以下の方針で対応することとなった。

- ・募集要項などに従い、原則すべて有料とする。
- ・無料を希望する場合は、企業の宣伝行為は一切行わないことを条件とする。
- ・企画の公益性から値引きを希望する場合は、学術集会会長の判断に一任する。

財団法人循環器学研究振興財団理事長の内田康美氏より、平成24年の財団法人の解散に伴い、公益信託を設立して残余財産5,000万円を内田賞として贈呈したい旨の申し入れについてこれまで議論を重ねてきたが、今回、以下の方針となった。

- ・賞の名称は個人名ではなく、賞の内容や主旨を示した名前とする。内田康美氏の寄贈により賞が設けられたことは、賞の経緯説明において明示する。
- ・受賞者の選考は日本循環器学会の選考委員会が行う。
- ・賞の授与は理事長・会長あるいは選考委員長が行う。
- ・賞金額は日本循環器学会に一任していただく。基礎・臨床それぞれ最優秀賞1件150万円、優秀賞1件100万円程度が妥当と考えられる。

以上の方針を内田氏に書面で連絡し、先方の意向を伺うこととなった。

第72回学術集会(松崎益徳会長)から2,000万円の基金を提供して「日本循環器学会留学支援基金」を設立する。航空運賃や滞在費の補助として、毎年度3名に1人あたり100万円の留学支援金を支給するものである。日本循環器学会の5年以上の会員歴を有し、会費を完納している満40歳未満の留学予定者であることを応募条件とし、学術集会運営委員会で書類審査により選考する。なお当基金には、来年度以降も会長から相応の(その年度に給付減少した程度)繰り入れをお願いしたい。

蘇生科学小委員会から、第2回日本蘇生科学シンポジウム(2009年3月19日、大阪)のポスター演題を日本循環器学会の不採択演題から選考したいとの申し入れがあった。この件は、日本蘇生科学シンポジウムは日本循環器学会の正式プログラムではないこと、応募者の承諾を得ない目的外使用にあたること、過去にそのような事例がないことを理由として、お断りすることとした。

以上について、承認された。

#### 5) 心臓移植委員会

島田委員長から以下の通り報告があった。

2008年10月15日現在の心臓移植および心肺同時移植適応検討の状況については資料のとおりである。国内での心臓移植は15歳未満2名を含めて56名に実施されている。

政局の混乱が続く中、臓器移植法改正がどのようになるか分からない状況であるが、引き続き関連学会と協力して国会議員への要望をより強く進める。

1997年3月から2008年10月末までに心臓移植適応検討を行った330症例(逝去除く)について、2006年に続いて2回目の予後調査を行うこととなり、各施設に協力を依頼した。

心臓移植適応検討に関する意見交換および臓器移植法改正後の対応を検討するため、移植実施施設と本学会委員が集まり第73回学術集會会期中に意見交換会を開催する。

第27回日本心臓移植研究会にて、本学会における心臓移植適応検討に関する状況について資料のとおり報告した。

以上について、承認された。

#### 6) 学術委員会

堀委員長から以下の通り報告があった。

循環器疾患診療実態調査(主査:友池仁暢先生)について、2007実態調査(2007年1月~12月)の集計がまとまった。

2007年度および2008年度発足ガイドライン外部評価委員の決定、交代、協力員の交代を行った。

APSCのCredentials Committeeからの依頼で室原豊明先生を推薦した。

Translational Research 振興事業として2009年度より2,000万円/件、毎年度2件、3年間の活動を行う。堀委員長、北徹理事、永井良三理事、友池仁暢理事で募集要領等のフレームワーク作りを行う。

保険適用とガイドラインの整合性について委員の意見集約を行い、今後のガイドラインの方向性を継続審議とした。

ガイドラインの英文化について、委員の意見を集約することで継続審議とした。

アルガトロバン適正使用および全例調査のホームページリンクについて、特例的に認める。

2009年-2010年度活動新規2ガイドラインのタイトルと班長を次のとおり決定した。

- ・「2次性心筋症および類似疾患のガイドライン」(仮題)(班長:友池仁暢先生、助成金100万円)
- ・「小児循環器診療に関するガイドライン」(仮題)但し、小児循環器学会に確認した上で決定し、班長は委員長に一任とした。

2005年度発足「末梢閉塞性動脈疾患の治療ガイドライン」(班長:重松宏先生)について原稿取りまとめの遅れにより、特例で2008年度まで活動を延長する。

2009 年度活動改訂版 2 ガイドラインの班長を次のとおり決定した。

- ・「慢性心不全治療ガイドライン」(班長：松崎益徳先生、助成金 100 万円)
- ・「慢性虚血性心疾患の診断と病態把握のための検査法の選択基準に関するガイドライン」(新班長：山岸正和先生、助成金 100 万円)

2008 年度発足「循環器診療における性差医療に関するガイドライン」(班長：鄭忠和先生)について「循環器領域における性差医療に関するガイドライン」とタイトルを変更した。

循環器救急医療委員会から循環器疾患診療実態調査データ利用依頼があったが、本来の目的外の利用につき問題があるので、日本循環器学会が購入した全国病院情報電子データを貸し出す。

大規模臨床試験 Pro-GEAR (代表者：宮田敏行先生)の試験期間延長申請について 2010 年 3 月 31 日まで延長する。

日本胸部外科学会からの「植込型補助人工心臓要件策定について」継続検討のため、今泉勉先生の推薦依頼がありこれを了承した(旅費等については日本循環器学会負担)。

以上について、承認された。

#### 7) 専門医編集委員会

友池委員長から以下の通り報告があった。

「循環器専門医」誌第 17 巻 2 号(2009 年 3 月 25 日発刊)については資料のとおりである。また、追加掲載事項として、学会印象記に中国にて開催された長城国際心臓病学会(GWICC)およびその会期中に開催されている第 4 回日中心血管フォーラムの記事を追加することとなり、朔啓二郎委員に執筆を依頼することとなった。

「循環器専門医」誌 17 巻 1 号(2009 年 3 月発刊)に掲載となる、循環器専門医施設見学を若い専門医の先生に執筆の機会をより多く与えるため、今年度より専門医試験成績優秀者上位より 3 名選出することとなった。なお、17 巻 1 号(2009 年 3 月発刊)に掲載の予定ではあるが、施設見学の日程により、掲載が 17 巻 2 号(2009 年 9 月発刊)に変更する場合がある。

ACLS の現状についての記事を掲載してはどうかとの意見があり、検討された結果、循環器専門医活動と現状の中に ACLS のタイトルを置き、2005 年ガイドライン内容などについての見開き 6 ページの記事を掲載することとなった。執筆者については、循環器救急医療委員会へ ACLS 専門の先生を紹介してもらえるよう依頼する。また、記事の人气が高ければ今後も継続した掲載を考えることとする。

以上について、承認された。

#### 8) 循環器救急医療委員会

小川久雄委員長に代わって小川理事長から以下の通り報告があった。

2009 年 1 月より BLS ヘルスケアプロバイダーコースの受講料を 18,000 円から 15,000 円に、ACLS プロバイダーコースの受講料を 38,000 円から 32,000 円に改定する。

12 月から開始する BLS ヘルスケアプロバイダー更新コース(半日コース)の受講料を 8,000 円、ACLS プロバイダー更新コース(1 日コース)を 18,000 円とする。

以上について、承認された。

#### 9) 情報広報委員会

坂田委員長から以下の通り報告があった。

JCS News Letter の配信件数について、なだらかではあるが順調に増加していることが報告された。  
第 2 回プレスセミナーについて、世界ハートの日にちなみ 9 月 26 日に開催され盛況に終了したことが報告された。

以上について、承認された。

#### 10) 国際交流委員会

鄭委員長から以下の通り報告があった。

2008 年 10 月 25 日にスイス・ジュネーブにおいて WHF 理事会が開催され松森昭幹事が出席した。  
WCC2010 の開催地は北京で最終決定となり、第一候補として 2010 年 6 月 9 日～12 日、第二候補として 2010 年 5 月 26 日～29 日が挙がっている。

WCC2010 の開催地最終決定が遅れたことや WHF の CEO が交代したこと等の理由で WCC2012 の開催地決定が遅れており、2009 年 4 月に開催される WHF 理事会でも決定されない可能性がある。

WCC2012 を招致できた場合の会長については、日本・WHF 双方からそれぞれ複数名を出し合う予定であり、日程は 5 月で JCS2012 と一部オーバーラップすることが条件となる見込みである。

WHF の CEO として Jeya Wilson PhD 氏が内定した。

ACC2009 期間中(2009 年 3 月 30 日 12:15-13:45)に ACC-JCS ジョイントシンポジウムが開催される予定となっており、日本側の座長として松崎益徳先生、演者として筒井裕之先生と松森昭先生が決定している。ACC 側の座長、演者および、ACC から提供される旅費等の詳細について、ACC に現在確認中である。

アジアからの学術集会参加者支援基金規定を資料のとおり設定する。

以上について、承認された。

#### 11) 健保対策委員会

和泉委員長から下記のとおり報告があった。

平成 20 年度の診療報酬改定に関する検証作業については、総売上は減少しているが大きな数字ではなく、特定機能病院・基幹病院レベルでは病院全体として増加しているという意見がある。厚生労働省の収集データより前に検証することを目標に、いくつかの病院のデータを収集して検証作業を行う予定である。

平成 22 年度診療報酬改定については、平成 20 年度に倣った形で行われる予定である。

外科系学会社会保険連合(外保連)の作る診療報酬提案データ、特に生理検査部分における部分について、内科系学会の実感との齟齬がある。このたび JCS も外保連に新たに加盟し、積極的な働きかけを行っていく予定である。年会費は 20 万円となる。

JCS 独自の DPC 調査について、厚生労働省の松田研究班と合同で調査を行っている。なお松田班は現在のところ平成 22 年度まで実施される予定である。

MDC 分類の見直し作業が行われており、内科側が和泉、外科側が坂本徹先生とし、計 10 名の委員にて関係学会等の意見を参照しながら検討する予定である。

アルガトロバンの HIT に関する DPC 外出しの要望は承認された。

以上について、承認された。

## 12) コメディカル委員会

水野委員長から次の通り報告があった。

JCSにおけるコメディカル会員について検討した。概要は下記の通りであり、定款改定案に盛り込む。

- 1) 専門医外形基準の関係で、医師を正会員、医師以外の会員については準会員とする。
- 2) 準会員は「医療に関する国家資格保持者又はそれに準じた医療関連職従事者」を対象とする。総会議決権・社員の選挙権及び被選挙権は持たない。
- 3) 会費や学術集会への参加費は、正会員の半分程度とする。
- 4) 雑誌は、「会告」のみを配布する。
- 5) コメディカル系会員の意見を反映する場として、現在のコメディカル委員会に関係者が参加していただく。

以上について、承認された。

## 13) 国内交流委員会

島本委員長から以下の通り報告があった。

ICD-CRT 研修制度に関するワーキンググループにおいて、厚生労働省医政局経済課とも相談の上、今後の研修制度の方向性について検討した。ポイントは以下の三点である。

- 1) 日本不整脈学会・日本心不全学会・日本循環器学会・日本心臓血管外科学会（あるいは日本胸部外科学会）の4学会8名で協議会をつくり、研修セミナーの内容改定についての報告を受け、これらについて検討して、次の研修セミナーへの提言を行っていく。
- 2) ICD-CRT の研修セミナーは、まず従来どおり企画運営は不整脈学会と心不全学会で実施し、事務局は不整脈学会に置く、さらに施設認定に関する研修終了証についてはこれまでどおり不整脈学会と心不全学会の両理事長名で出していくという、従来どおりの体制を、運営に関しては維持していく。
- 3) 将来的に厚労省の方針として、この実施基準をつくる上でステントのように協議会方式をとることになった場合には、この本協議会を母体として新しい役割に沿った協議会に発展、変更していく。

なお日循からの委員については、国内交流委員会から推薦する。

業者立合いの有償化については、各施設の対応が進んでいないようであるため、啓発の意味も込めてペースメーカを扱う主要施設にたいしてアンケート調査を行い、現状を把握する。調査結果を踏まえて、今後の対応を検討する。

日本心臓核医学会・日本糖尿病学会・日本血栓止血学会からジョイントセッションの申込があった。

以上について、承認された。

## 14) 財務委員会

北委員長から以下の点について報告があった。

2009 年度予算案の作成スケジュールについて確認がなされ、資料の予算方針に基づいて概算要求書を申請いただくよう各委員長に依頼された。

資料の通り、賛助会員1社の新規入会があった。

8月末日現在の「一般会計」、「専門医特別会計」及び「学術集会特別会計」の収支執行状況について、資料の通りであること、また、委員会で挙げた意見の報告及び依頼があった。

- ・CJの広告料収入が大きく減少していること
- ・ガイドラインの二次利用がなく、収入源としてPRしていくことの是非が議論されたこと
- ・委員会活動の予算と決算との乖離が大きく、今年度の補正も約7千万円ほど申請を受けている。予算方針はもとより予算委員会からの申し送り事項(2007年度第3回理事会周知)について配慮すること

委員会議事次第に挙がっている2007年度決算で挙げた今後の課題について、

- ・専門医会計での赤字決算、赤字予算について、基金の弾力的な運用をし、対応していく
- ・予算準拠主義に基づき、収支報告をメインで行ってきたが、資産負債といった財産状況についても報告、周知していく
- ・基金目的が、公益認定後の各事業項目と整合性を保てるか、運用出来るかという問題について、今後、検討していく予定であり、意見を求められた
- ・公益認定申請に向けて、予算や財産の振り分け等の会計面の整備は、事業区分に合わせて必要になってくることの理解を求められた

以上、  
について承認され、会計及び業務監査については、青沼監事より資料のとおり報告がなされた。

#### 15) 専門医制度委員会

土居委員長から以下の通り報告があった。

第19回(2008年度)循環器専門医資格試験について、合格者は602名で合格率は86.12%である。当会機関誌(Circulation Journal)の掲載論文に盗用があった件について、当該論文の共著者に大学の教授がおられることから各施設に関して何らかの処分、具体的には「各大学医局員の2009年度専門医受験申請を認めない」という点についての検討依頼であったが、下記の点から各施設に対する処分は行わないことになった。

- ・関与しているのは共著者であり、医局員は直接関与していないこと
  - ・医局員の範囲が明確ではないこと
  - ・論文盗用の件と、循環器専門医制度とは直接関係がないこと
  - ・「連帯責任は最小限に留めるべきである」と学会顧問弁護士から意見をいただいていること
- 専門医制評価・認定機構に指摘されている本学会専門医制度の問題点下記3点について現在検討を進めているが、ほぼ方針が固まってきている。
- ・循環器専門医の医師像について
  - ・指導体制について
  - ・認定更新の際の必須研修内容について

以上について承認された。

#### 16) 編集委員会

下川委員長より以下の通り報告があった。

Stroke誌からの盗用論文に関し、調査・事実確認を行い、10月10日付けでアナウンスを公告するとともにオンラインジャーナルより論文を撤回した。

それに伴いAssociate Editor1名、Editorial Board1名が辞退された。

CJ の更なる quality の向上を目指す新たな取り組みとして、以下の3点を設ける。

- 1)次世代を担う若手研究者 30 名に Review Article の執筆を依頼し、Vol.73 以降順次掲載する。加工料金含む掲載料は無料（学会負担）別刷 100 部贈呈、謝金の支払いはなしとする。
  - 2)採択された論文の内、特に優れた論文に対して Editorials の執筆を依頼し、Vol.73 以降順次掲載する。加工料金含む掲載料は無料（学会負担）別刷 100 部贈呈、謝金の支払いはなしとする
  - 3)国内外の著名な方に Review Article の執筆を依頼し、Vol.73 以降順次掲載する。加工料金含む掲載料は無料（学会負担）別刷 100 部贈呈、謝金は海外執筆者\$1,000 とする。
- Best Reviewers of the Year として、2008 年より査読期間と査読回数により上位 10 名の Reviewer を HP で表彰するとともに感謝状と 3 万円/人の副賞を贈る。
- Vol.73 No.1 より、紙質を薄く軽いものに変更し、表紙デザイン及び目次スタイルを刷新する。
- CJ 誌を会員全員に送付することの是非について、会員を対象にアンケートを実施する。
- 二次使用に関して、図表の転載が無料であったことを改め、今後は、学術目的であれば無料、営利目的であれば有料（許諾料を請求）とする。

以上について、承認された。

#### 17) 総務委員会

小川聡委員長から以下の通り報告があった。

会員の処分について下記の通り取り決めた。

- 1)専門医制度の専門医の不正取得に関しては、当該医師は専門医の取り消し、なおかつ今後 3 年間の受験を認めない。
- 2)Circulation Journal の盗用問題に関しては、筆頭著者は除名かつ 3 年間申請があっても当会への入会は認めない。また Circulation Journal への投稿を 3 年間禁止する。第二著者は指導者としての責任は免れないとし、1 年間の投稿禁止に加えて、今回の専門医試験を不合格とする。ただし来年から受験可能である。その他の全共著者に関しては、厳重注意かつ 1 年間の Circulation Journal への投稿禁止とする。

これらの事例の公示については次の通りとする。

- 1)専門医の不正取得の該当者については、ホームページ及び会告に会員番号・処分理由・処分内容を掲載する。
- 2)Circulation Journal の論文盗用問題については、文科省のガイドラインに従い、ホームページ及び会告に該当者の氏名・所属を明記するとともに、不正行為の内容・JCS の対応措置の内容、調査委員の氏名・所属、調査の方法・手順等を掲載する。

また外部への報告については次の通りとする。

- 1)専門医の不正取得については、日本専門医制評価・認定機構へ報告する。
- 2)Circulation Journal の論文盗用問題に関しては、所属する研究機関である山形大学の学長及び日本専門医制評価・認定機構へ報告する。

日本専門医制審議会から厚生労働省へ提出された要望書の件で、外科系学会から意見書が提出された。JCS としては、外科系学会の意見書とは別に、JCS として日本専門医制評価・認定機構に対して情報公開等の要望を提出する。

JCS 事務局で使用している会員管理システムが古くなったため、更改を予定している。4 社相見積り

の結果、京都電子計算に依頼することとする。総額 8,000 万円程度で 5 年リースによる契約とする予定である。

友池理事から日本の循環器医療に関して JCS が積極的に発言すべきであるという提案があった。具体的内容については、友池理事を中心にワーキンググループを作って検討する。主な意見は下記の通り。

- ・循環器に関する対策基本法のようなものを制定してはどうか。
- ・循環器救急に関する状況改善を求めたい。
- ・社会に対して循環器医療の現実を認識させるための働きが必要である。
- ・心臓血管外科領域でも医師数の減少が見られる。
- ・フィジシャン・アシスタント制度の導入についても検討すべきである。
- ・実態に関するデータを収集・保持し、裏づけをもって発言していくことが必要である。

以上について、承認された。

### 第 3 号議案 年次学術集会に関する件

#### 1) 第 73 回年次学術集会報告

第 73 回学術集会堀正二会長から以下の通り報告があった。

一般演題 3,905 演題の応募があり現在査読中である。コメディカルセッション一般演題 360 演題、シンポジウム 59 演題の応募があった。

会長特別企画として International Session と題して世界各地に医療状況、特に Cardiovascular Risk をメインにディスカッションを予定している。

今回よりビデオライブ「ビデオライブで見るリスクとベネフィットを考えた治療戦略」は教育セッションに組み込んだ。

海外招待者は現在 74 名を招請予定している。

市民公開講座（生活習慣から見た予防、禁煙、心肺蘇生）も企画し、準備中である。

以上について、承認された。

#### 2) 第 74 回年次学術集会報告

第 74 回学術集会北徹会長から以下の通り報告があった。

会期は 2010 年 3 月 5 日（金）～7 日（日）の 3 日間、国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都で開催する。

メインテーマは「知の集約による真理の探求～基礎と臨床の融合～」とした。基礎と臨床が車輪となり関係する研究者や医療スタッフの知を結実し、循環器病学の発展と循環器疾患の克服を目指すというテーマにした。

事務局長は堀内久徳先生（京都大学循環器内科講師）企画会社は日本コンベンションサービスに決定した。

以上について、承認された。

### 第 4 号議案 委員会委員の承認

議長から、前回理事会以後に生じた各委員会の委員等の異動について資料の通り提示され、承認さ

れた。

第5号議案 その他

1) 幹事報酬の見直しについて

議長から、国際交流幹事をその重要性および時間的な作業の大きさに鑑みて有給幹事としたい旨提案があった。額は毎月1万円とする。

以上について、承認された。

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の議事についての謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人はこれに署名押印する。

2008年11月7日

社団法人 日本循環器学会 2008年度第2回理事会

(署名)

(捺印)

議長 小川 聡

議事録署名人 堀 正 二

同 北 徹

(以下余白)